

令和3年度全国高校総体 「審判員報告書」

C4 新体操女子

審判長 鈴木あおい・副審判長 伊豆島知佳

1. 採点上打ち合わせた事項

このような情勢のなか数少ない試合からの全国大会となったため、オンライン研修と自宅研修の確認という形で審判研修を行った。

【個人D1】

ニュースレター確認事項より

- ・投げによる不正確な軌道の実施について、難度が無効になるケースと有効になるケースの確認。
中くらい／大きな投げでのBDについて、投げが正確に投げられていた場合には受けで喪失があってもBDはカウントする。不正確な軌道により、移動して空中で取った場合にはBDはノーカウント。(フェットバランスはもう一つの手具操作があればカウントする)
- ・パッセバランスとフェットバランスについて
ルール上、1つのフェットバランス中に同じ形を繰り返すことは可能だが、これらの形を単独または他のフェットバランスにて繰り返すことはできない。時系列でみていくため、パッセバランスが先に出てきた場合、フェットバランスがノーカウントとなる。(ADはカウントできても難度はカウントできない。)
- ・難度の数
- ・BD中の手具操作の確認(同じ要素の繰り返しになっていないか)
フェットピポット中の手具操作(2回転に1つあるか)
- ・ダンスステップ中の手具の基礎要素の有無

【個人D3】

- ・オンライン研修での資料や、前日の映像研修で確認した内容をもとに実際に起こりそうな事象について確認した。
- ・視野外を伴う受けのADのカウントノーカウントの見極め、投げのADにおける移動かコントロールステップかの見極めについては入念に確認を行った。

【個人フープE1】

- ・ダイナミックな変化の減点をするかしないかで見解が分かれたため、厳しくはなりすぎず、出場選手の中でダイナミックな変化がある選手ない選手で差をつけていくことを打ち合わせした。
- ・選手の身体の質にとらわれすぎず、作品の良いものには良い評価を。芸術の中での順位がきちんとついていくように差をつけていく。

【個人リボンE1】

- ・1つひとつの減点項目が、他の減点項目に引っ張られることなく、必要な減点を正しく入れていくこと。
- ・作品全体を通してテーマを感じるものなのか、もしくはダンスステップには特徴を感じるが、それ以外の部分は不十分なものなのかといったアイデアのガイドの目線を合わせること。
- ・必要な手具の基礎技術要素、最低2つの波動の減点項目の確認。

【個人フープE3】

- ・基礎技術の減点の見極め。選手の美しさや大きさに差をつけられるようにすること。
- ・移動の減点について、移動なのか、コントロールされたステップなのかの見極め。

- 特に手具を投げ上げた際の軌道を見て、予定された位置への投げ上げなのか、そうでないのかを見ることで見極めること。
- ・映像研修中でのバランスの静止について統一できていなかったため、目線を揃えた。
 - 引き上げた位置でのストップポジションが見えるか、ただの振り上げなのかで減点を入れるか入れないかを確認。

【個人リボンE3】

- ・映像研修ではBDの誤差、バランスの静止の減点、ミスによる移動、身体と手具の基礎技術の部分の減点について、目線の統一を図った。
- ・実施ミスを見落とさないが、ミスの有無だけにとらわれず、選手の美しさ、BDのクオリティ、手具操作の正しさを評価することを確認した。

【団体D1】

- ・交換の基準を正しく実施しているか、BD中の誤差のみでなく手具操作を正しく実施しているかを見極め、5名全員の実施を判断できるよう研修を行った。

【団体D3】

- ・連係/Rで回転の重複、回転不足のもの、投げ受けのタイミングが悪いもの、関わりのないものなど、正確に行えていないものを見極め。
- ・投げの高さの確認。
- ・手以外、視野外もたくさん入ってくるため、正しく行われているものに価値を与える。
 - ・D3はとにかくどのチームをたくさん入れてくるので、正しく行われているかきちんと見極め、正しいものに価値を与えていくよう心がけた

【団体E1】

- ・Dのボリュームが大きいため、実施で差をつける必要性があることの確認。
- ・作品に対する評価が大切。作品にテーマがあるか、明確な特徴はあるか、技の羅列になっていないか、音楽をいかしているか等しっかり見極める。

【団体E3】

- ・チーム全体の身体の資質やレベルを見極め、姿勢欠点やBDに必要な減点を入れた上で、その時の実施度（落下や移動等）の減点を入れるよう確認した。ミスの有無のみに偏らないよう、バランスよく採点することを確認した。

2. 採点上起こった事項とその処理

選手、チームの、身体レベルと質の見極め・作品構成・完成度・実施度を正確に点数化し、選手、監督が納得できる採点を目指した。

【個人D1】

◎フープ

- ・受けの手具操作でBDを行う際、タイミングにより難度がノーカウントになる選手がいた。また、くぐりぬけも同様にBDをする前にくぐりぬけてしまうケースがあり、ノーカウントにする場合があった。
- ・バランスの静止がなく、取れないものがあった。

◎リボン

- ・フェッテバランスの手具操作が中断してしまい、ノーカウントになったものがある。
- ・フェッテバランスの手具操作が投げだけしかなく、不正確な投げで行ったものはノーカウントにした。(1名)
- ・フェッテバランスの前にパッセバランスを使用し、フェッテバランスがノーカウントになった選手が数名いた。

- ・難度中に手具操作がない場合はノーカウントにした。(持っているだけ)
- ・ダンスステップが短い選手が何名かいた。(ノーカウント)

【個人D3】

- ・2回転のRの回転時に中断がありRの基準を満たさずノーカウントにした。
- ・Rの2回転目が回転不足でノーカウントになるケースがいくつかあった。
- ・RまたはADにおいて、回転の重複(シェネ、伸ばしのプリンチック、お尻まわり)と判断したものは2回目に出てきたものをノーカウントにした。
- ・回転を伴うADを実施する際に、ベースの手具操作に対して回転のタイミングが合っておらず、ノーカウントになるケースが数件あった。
- ・受けのADは視野外の基準不足でノーカウントになることが多かった。
- ・投げのADを行ったあとの移動を、不正確な軌道によるものかコントロールステップかの見極めについては、投げの軌道と選手の実施度を見て判断した。

【個人フープE1】

- ・ADが年々増え、技の羅列になってしまいつなぎ/リズムの減点が多く入ってきた。
- ・最初の方はテーマ性が少し見えても中盤から後半はほぼ羅列というような演技もあり、作品全体のテーマが見えづらく感じた。
- ・減点箇所にも多少違いはあっても同じような点数が出てきてしまうこともあり、大胆な差をつけることができなかった。
- ・わずかでしたが、転がしが入っておらず0.3の減点が入った選手や、波動の2つが見えず0.2の減点を入れた選手もいた。

【個人リボンE1】

- ・減点項目は違えど、最終的に点数化した時に同じような点数になり、全体を振り返った時にあまり点数の幅を出せなかった。
- ・ADやRの要素が多く入っている作品が年々増えてきてはいるが、選手たちも現在のルールに適應してきており、投げ受けの際にステップを入れる、技の繋ぎ部分で波動を入れるなど、以前より流れの良い作品が増えたように感じた。しかし、その一方で、流れ良く演技しているものの、ただの技の羅列になっているだけで、作品のテーマが明確に感じ取れないものもあった。
- ・手具の差し替えなどにより実施減点が入る選手に対して、芸術減点を引ききれておらず、作品全体に与える影響を審判長と確認した。
- ・演技終了時の音楽不一致は、明らかなものに対して減点を入れた。

【個人フープE3】

- ・移動の減点について、多くの選手が投げ上げた手具に対して、少しの軌道のずれであれば上手く処理・対応していたと感じた。そのため、はっきりと移動として減点するのは明確だったと感じる。
- ・全体的にADを増やすことに追われていると感じる選手が多く、身体の基礎技術の減点において、ルルベが低い、姿勢が悪い選手が多かった。演技全体を通して、美しく実施されている選手とそうでない選手で差をつけることができた。
- ・プレアクロバットの着地の重い選手が多く、減点を入れた。
- ・BDの誤差-0.3でもカウントできることから、無理な姿勢や開脚度で実施している選手も見られ、BDの形そのものの質の悪さやそれに伴って身体の基礎技術の減点、さらには手具操作の不明確さもあると感じた。その選手に合ったBDの選択をしなければ、怪我に繋がることも考えられる。
- ・多くの選手がBDとADを組み合わせて実施しているため、特にバランスの静止や形の不明確さが多く見られた。さらに、フェットバランス中のADの実施については、体を回転させながら実施している選手、無理矢理高いポジションまで足を上げている選手が目立ったため、減点を入れた。
- ・手具を受ける際に、視野外で実施している選手が多かったが、肘を伸ばして遠くで受けている選手が多かったように感じる。カウントできるようにトレーニングされている部分だと感じた。

【個人リボンE3】

- ・試合開始直後に身体、手具の減点で審判間に誤差があり、審判長と協議を行ったが、確認できたことにより、その後の採点をスムーズに進めることができた。
- ・研修でBDの誤差について確認は行ったが、実際の演技では特に0.1の誤差か0.3かで迷う実施のものもあった。また、BDの実施の向きと審判席の場所によっては誤差の減点に迷うことがあった。
- ・リボンの扱いについて、技術的に大きな差が見られた。リボンが扱いきれておらず、ミスも多く、リボンの描きも甘かった。BD中は正しく描けているが、つなぎの部分で緩む場合、Dの要素が多く次々と動くために雑な操作になっていることも見られた。
- ・受けの際に肘が曲がる、手具操作が身体に近いことも多かった。ADでの転回要素が多い分、正しく美しい四肢の選手もいたが、四肢の減点が入ることも多かった。
- ・E3の観点から見て、BDの可動域の大きさ、動きの滑らかさが今後の課題であると感じた。

【団体D1】

- ・フープの斜めの面での投げ、クラブの水平回転の投げが不正確であり、ノーカウントになることがあった。
- ・BD中の手具操作が不正確でノーカウントとなった場合があった。カウントできる場合でも、手具操作が雑であったり、BDとのタイミングが悪い、不明確な手具操作も見られた。
- ・交換中のBD、特にパッセバランスやカットジャンプが不明確であると感じた。
- ・5年目のルールということもあり、ダンスステップのクオリティは良くなったように感じる。しかし、ダンスステップ中に手具をずっと保持する、手具が止まっているチームも見られ、もう少し手具での表現や多様性に工夫があると良いと感じた。

【団体D3】

- ・投げの高さに関しては、どこのチームも気をつけてきており、足で蹴り上げるものが小さい投げになってしまったであろうものや、複数投げの1つが小さいなど明らかに低いものをノーカウントとした。
- ・回転の重複も多くはないが、Rの回転と連係で回転が重複していることが何件かあった。
- ・手以外・視野外の投げ受けの基準を実施していることが多かったが、正確に行っているものに価値を与え、手が触れてしまったものや、不正確なものは基準をノーカウントとした。
- ・回転不足、投げと受けのタイミングが不正確であるもの、関わりが怪しいものはノーカウントとしたが審判間で連係の見方で少しが分かれた部分もあった。
- ・連係と連係が重なってしまっており、2つ目の連係がノーカウントになるケースもあった。
- ・選手同士や、選手と手具が接触しノーカウントとなる連係もあった

【団体E1】

- ・演技の前半は、曲の特徴をとらえ良い作品に見えても、後半は羅列に見えてしまうチームが多かった。それによって作品の良さが見えず、減点につながった。また、ミスによって作品が見えず、多くの減点が入るチームもあった。その際、作品全体に与えた影響を判断することの確認を審判長と再度行った場面があった。

【団体E3】

- ・プレアクروبات中の四肢の緩み、重い着地の減点が入るチームが多かった。
- ・移動について判断が難しいと感じることもあったが、演技全体と選手の動き、投げの軌道を見て判断した。

- ・連係の連続ということもあり、すぐに次の動作をしなければならなかったためか、手具を体の近くで操作している選手、チームが多かった。特に受けの際に肘が曲がってしまい、基礎技術の減点が入った。フープの抱え受けも多かった。
- ・BDでの誤差について、5名全員が誤差のないものを選択することは難しいが、チーム全員またはチームの中で何名か大きな誤差が入ってしまう選手がおり、無理のないBDの選択が必要だと感じた。

3. その他特記事項・意見・感想等

【個人D1・団体E1 一瀬留美子】

今大会開催にあたり、地元新潟県の皆様には大変お世話になりました。コロナ禍での開催となり、役員・補助役員の不足、感染対策等さまざまな困難の中、きめ細やかな運営をしていただき本当に感謝いたします。本当にありがとうございました。

【個人D3・団体E3 松田 桜】

コロナ禍の大変な状況の中で大会を運営して下さった開催県である新潟県の先生方、関係いただいた全ての方々に心から感謝申し上げます。

そして、今大会に審判員として参加できたこと深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

【個人フープE1・団体D3 森晴菜】

今大会に審判員として参加させていただきましたことに、心より感謝申し上げます。団体ではD3を見ましたが、連係の数とても多く、その中でスムーズに繋がっている作品もあり、高校生のレベルの高さを改めて感じました。

その中でも連係のたびに同じ手以外・視野外キャッチをたくさん入れているチームと、海外のように様々な手以外・視野外キャッチを行っているチームとで、同じ数の連係を行っていたとしたら同じ加点にしかならないことがすこしもどかしくも感じました。

コロナが落ち着かず大変な中、開催されました新潟県の先生方、役員の皆様、全ての方々に感謝申し上げます。貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございました。

【個人リボンE3 団体D1 佐藤 なつみ】

今大会に審判員として参加させていただきましたことに、心より感謝申し上げます。

各地に緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置が出され、満足に練習ができない選手・チームもいらっしゃるかもしれませんが、2年ぶりのインターハイが無事開催を迎えられ、選手の皆様が演技できましたことを、本当にうれしく思います。コロナ禍で様々な制限がある中でも、個人・団体ともに高校生のレベルが上がっていることを実感しました。

今大会の開催にあたり、高体連・新潟県の皆様には大変お世話になり、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

【個人リボンE1 阿部涼子】

個人、団体共に年々レベルが上がっており、D得点を上げながらも、作品のテーマや流れを感じるもの、実施力の高さを感じるものが増えてきていると感じました。審判員として、そういった選手、チームを正しく採点していけるよう今後更に研鑽を積む必要があると感じました。

最後になりましたが、このような状況の中、心配されることも多々ありましたが、役員の皆様のきめ細やかな感染対策のお蔭で無事大会を終了できたことに感謝申し上げます。そして、このような大会に審判員として貴重な機会を頂けたこと深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

【個人フープE3 北澤萌】

今大会に審判員として参加させていただき、貴重な経験をさせていただきました。また、開催県である新潟県の先生方、すべての役員の皆様、高体連の皆様には準備から運営、片付けまで細やかなご配慮をいただきました。コロナ禍の中での運営で、今まで以上に気を遣うことがありながらも素晴らしい大会になったこと心より感謝申し上げます。

採点上感じたことについては、昨年1年間多くの試合が中止となり、全国の高校生のレベルがどのようになっているか気になる点でしたが、世界の傾向と同様、ADを極限まで入れ込み、美しさやストーリー性のある作品が少なかったと感じました。それに伴い、今回担当させて頂いた技術的欠点の面においては、ADを多く入れながらも身体、手具ともに基礎技術の減点が少なく、美しく実施している選手とそうでない選手の差が明らかであり、上位選手以外は動く度に減点を入れざるを得なくなっていました。日常の練習時間の減少により、ADを習得することに追われ、基礎練習が不十分になってしまっているのかなともとらえられました。今後、審判として正しいジャッジができるよう力をつけ、より美しさに重きを置いて実施する選手が増えることに繋げられればと思っております。

3日間、ありがとうございました。

【副審判長 伊豆島 知佳】

二年ぶりのインターハイということで、選手たちの熱い想いをしっかりと受け止め、なおかつ冷静に採点することに注意した。

この二年で構成内容は新競技のように変わってしまったため、個人団体ともに上位陣と中間層、さらにその下とで構成点数に差が出た。その差は実施ではカバーしきれないものもあり、このルールの難しさを改めて感じた。

このコロナ禍での開催ということに踏み切ってくださった、開催県の関係者様には準備から運営まで大変細やかな対応をしていただきました。そして、今大会に審判員として参加できたこと深く御礼申し上げます。

【審判長 鈴木 あおい】

まずはこの状況下にも関わらず開催実現に向けてご尽力いただいた全ての方々への感謝と共に、出場を予定していた選手、チームの全員がフロアに立つことができたことが何より喜ばしい限りである。

2年ぶりとなった今大会、高校生の強く熱い想いを、1つ1つの全ての演技から感じることができ、またDが青天井となり構成内容が大きく変わっていく中でも、このルールに果敢に挑戦し、そして着実に進化している選手、チームばかりであったことを感じた。Dのボリュームが増えているということは、一つ一つの動きのスピードがどんどん上がってきているといえる。それでも身体の正しさ美しさ、基本的な正しい手具操作、そして何より1つの作品としてのテーマ性をどのように現わしていけるかの追及を課題としてあげておきたい。

最後に、コロナ禍の中感染対策など今まで以上に大変な準備、運営にも関わらず、きめ細やかな対応をしてくださった開催地新潟県役員の皆様、高体連体操専門部の皆様をはじめ関係くださった全ての方々に支えていただき今大会が終了できましたこと、厚く御礼申し上げます。